

### スフィンゴ脂質生物学と治療

オーガナイザー

北谷和之(摂南大薬)  
中村浩之(千葉大院薬)

スフィンゴ脂質は、スフィンゴイド塩基骨格を持つ脂質の総称であり多様な生命体の脂質性構成分子である。スフィンゴ糖脂質、スフィンゴミエリン、スフィンゴシン-1-リン酸、セラミド-1-リン酸やセラミドは代表的分子であり、その生命科学研究により多様な生物学が明らかにされている。

スフィンゴ脂質の合成・代謝分解酵

素、細胞内外輸送分子、受容体や細胞内標的分子が同定されており、これら分子の疾患への関与が指摘されている。

本シンポジウムでは、生物学と創薬研究に着目し、ゲノム編集技術を用いたスフィンゴ脂質生物学研究、スフィンゴ糖脂質の肥満への関わり、セラミドキナーゼを標的としたC型ニューマンピック病治療、癌治療に挑むスフィンゴ創薬研究の最前線について紹介する。

これらの紹介と活発な議論から、新たな創薬に向けた研究戦略の創出に挑む。(北谷和之、中村浩之)

### 日本薬学会・韓国薬学会合同シンポジウム

## Med Chem Corona:COVID-19

### 治療薬創製研究の最前線

オーガナイザー

林良雄(東京薬大薬)  
土井隆行(東北大院薬)  
大野浩章(京大院薬)  
平井剛(九大院薬)

日本薬学会国際交流委員会の活動に2国間交流事業があり、年会では2年に一度、日本薬学会・韓国薬学会の合同シンポジウムを開催し、韓国薬学会との交流を深めている。

本年は医薬化学部会が担当し、Med Chem Coronaと題して、世界に深刻な影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の治療薬開発に向けたシンポジウムを企画した。

両国から、抗ウイルス薬創製研究の最前線で活躍する4人のシンポジストを招聘する。ソウル大のLak Shin Jeong先生、光州科学技術院(GIST)のYong-Chul Kim先生、国立感染症研の渡士幸一先生、鹿児島大の馬場昌範先生である。

S-アデノシルホモシステイン加水分解酵素阻害剤やプロテアーゼ阻害剤の創製、化合物ライブラリーからの抗SARS-CoV-2化合物の探索をご報告いただく。

COVID-19克服への両国薬学の貢献を討議する素晴らしい機会になると思われる。(林良雄)

### 老化と眼疾患 -いつまでも健康な視機能を

オーガナイザー

中澤洋介(慶應大薬)  
長井紀章(近畿大薬)

外界からの情報の約80%は視覚から得ていると言われており、良好な「視覚」を維持することは、安心安全な生活を維持する上で優先順位が高い。また、超高齢化社会を迎え、近年では「見え方」の質、通称Quality of Vision(QOV)の追求が広く浸透し、眼科領域研究の重要性は研究だけでなく、臨床業務においてもますます高まっている。

研究の分野においては、眼科領域は角膜移植やiPS細胞の網膜組織再生医療をはじめ、常に最先端医療技術の発展に寄与してきた。

こうした背景から、本シンポジウムでは加齢に伴う眼組織機能変化とその予防法に関する最新の知見や話題を提供いただき、薬学における眼科領域の研究、教育、薬学臨床業務をアップデートすると共に、薬学の視点から見た超高齢社会のQOV向上のあり方について議論する場を提供したい。

(中澤洋介、長井紀章)

### 理事会企画シンポジウム

## ダイバーシティ・Learn from Cases

オーガナイザー

高山廣光(千葉大)  
伊藤美千穂(京大院薬)

日本薬学会は、性別年齢を問わず全ての人対等な立場で活躍できる社会の実現を目指し、その環境を整えるための取り組みとして、2016年に「男女共同参画社会づくり宣言」を発信した。

それ以来、男女共同参画委員会が中心となり、年会時に理事会企画シンポジウムを4回開催することで、薬学会として取り組むべき方向性を議論してきた。

20年度から委員会名を「ダイバーシティ推進委員会」と改め、多様な属性の人材が活躍できるInclusiveな社会作りを目指した諸活動を行うこととした。

そこで、今年会では「ダイバーシティ推進」に視点を移した内容で本シンポジウムを企画した。内閣府、日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会、そして製薬企業の専門家のご講演から様々な組織での理念や取り組みを学び、さらに聴講者の方々と共に議論を深めることで、薬学会におけるダイバーシティ推進のための方策を探りたいと考えている。(高山廣光)

### 独創的な創薬研究はいかにして生まれたか?

-2020年度医薬化学部会賞ならびに

### 2019年度MCS優秀賞受賞講演

オーガナイザー

巾下広(小野薬品)  
大高章(徳島大院医歯薬学)  
青木一真(第一三共)

日本薬学会医薬化学部会では、創薬の発展に寄与する革新的な内容を含む研究成果を医薬化学部会賞として表彰している。また、メディシナルケミストリーシンポジウムの一般口頭発表およびポスター発表の中から、創薬研究の進歩と将来の発展に寄与する顕著な内容を含む研究成果を医薬化学部会MCS優秀賞として表彰している。

本シンポジウムでは、2020年度医薬化学部会賞を受賞した「ヤヌスキナー

ゼ(JAK)阻害薬デルゴシチニブの創製(日本たばこ産業)」と「新規シデロフォアセファロsporin抗菌薬セフィデロコルの創製(塩野義製薬)」の研究成果をご講演いただく。

また、19年度医薬化学部会MCS優秀賞を受賞した「ライソシンEを基盤としたBOCライブラリー構築と評価による新規抗菌類縁体の探索(東大院薬)」と「新規経口型HSP90阻害剤TAS-116の創製(大鵬薬品工業)」の研究成果をご講演いただく。

これら優れた研究成果の知識や経験の積極的な共有を通して、画期的な新薬創製につながる新しいアイデアが生まれることを期待する。(巾下広)

# 祝 日本薬学会 第141年会

(順不同)

 <p><b>明治薬科大学</b></p> <p>〒204-8588 東京都清瀬市野塩二丁目1番1号 電話 〇四二(四九五)八六一番(代)</p>	 <p><b>武蔵野大学薬学部</b></p> <p>〒202-8585 東京都西東京市新町一丁目1番1号 電話 〇四二(四六八)三三五〇番</p>	 <p><b>東京薬科大学薬学部</b></p> <p>〒192-0392 東京都八王子市堀之内一丁目4番1号 電話 〇四二(六七六)五一一番(代)</p>	 <p><b>東京理科大学薬学部</b></p> <p>〒278-8510 野田市山崎二丁目4番1号 電話 〇四(七一二四)一五〇一(代表)</p>	 <p><b>北里大学</b></p> <p>〒108-8641 東京都港区白金五丁目1番1号 電話 〇三(三四四四)六一六一(代)</p>	 <p><b>日本薬科大学</b></p> <p>〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室一〇二八番1号 電話 〇四八(七二二)一一五五番</p>	 <p><b>城西大学薬学部</b></p> <p>〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台一丁目1番1号 電話 〇四九(二七二)七七一一番</p>	 <p><b>新潟薬科大学</b></p> <p>〒956-8603 新潟市秋葉区東島二丁目6番1号 電話 〇二五〇(二五)五〇〇〇番</p>
--	---	---	---	---	--	---	--